

国連地雷対策サービス部部长

マカイユさん

インタビュー



紛争や戦争が終わっても、多くの地雷や不発弾が埋もれたままになっていて、多くの人を傷つけています。国際連合(国連)で、こうした地雷などを取り除く活動を進

めているのが、国連地雷対策サービス部(UNMAS)です。同部部長の、アニエス・マカイユさんに、お話を聞きました。
【大井明子】



金属探知機を使って地雷を探し、見つかったら印をつけたうえで、ていねいに掘り起こします。気が遠くなるような作業です=東アフリカにあるソマリアの首都モガディシュで
UN Photo/Tobin Jones

紛争地の地雷 取り除く

☆UNMASはどんな活動をしていますか？

UNMASの活動は大きく三つあります。一つ目は「除去」です。金属探知機などを使って地雷などを探し出し、取り除いて処理します。人びとが安全に生活できるようにする

ための第一歩となる、大切な仕事です。しかし、ほとんどが手作業で、危険をともないます。特別な訓練も必要です。市民団体などと協力して、現地の人たちを訓練し、雇うこともします。紛争の後で仕事がなく、貧しい人たちに、働く場を提供することにもなります。

地雷を知り、身を守る

二つ目は「外交」です。各国に、人を無差別に傷つける地雷を作ったり使ったりしないよう呼びかけています。

三つ目は「教育」です。地域の人びと、特に子どもたちに、イラストなどを使って地雷や不発弾について教え、触ったりしないよう注意をうながします。

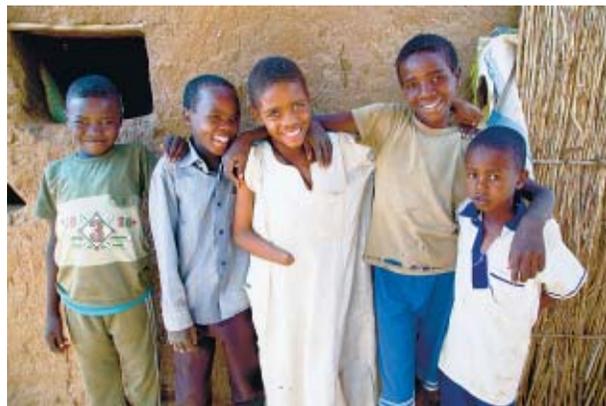
☆なぜ、子どもたちへの教育が重要なのですか？

子どもは好奇心が強いので、地雷や不発弾が落ちているとつい手に取り、被害にあうことが多いのです。

また地雷は、人を殺すことよりも、人を傷つけることを目的にしているものが大半。手足を失ったり失明するなどの大けがをさせ、強い恐怖心を植え付けるのです。このため一部の地域では、子どもをねらって地雷に人形や車のおもちゃなどをくっつけておくことが



日本のNPOの現地スタッフが、学校で地雷教育を行っています=北アフリカのスーダンで
Johann Hattingh/UNMIS



12歳のアブドゥラヒム・アーメド・モハメッド君(左から3番目)は、不発弾の爆発で右手を失い、左目を失明しました=北アフリカのスーダンで
UN Photo/Albert González Farran

☆現在世界には、どのくらい地雷が埋まっているのですか？

あまりにも多すぎてわかりません。地雷は一度埋められると、爆発したり除去されたりしない限りは埋まったまま。地雷は1個が数百円程度と安いのですが、見つけて処理するには数十万円かかります。調査や処理には、お金と時間がかかります。

☆日本はUNMASの活動に、どう関わっていますか？

日本はUNMASが1997年にできる前から、カンボジアやラオスなど、各地で積極的に地雷除去の活動を進めています。今もUNMASの、最大の資金供出国です。日本人もたくさん活動しています。また、地雷除去に必要な金属探知機や、ブルドーザーなどの建設機械も、性能の良い日本製のものが活躍しているんですよ。